



わくわく通信

- 展示解説員が博物館の見どころを紹介します -



民家園のあゆみ

博物館の裏には、今から160年から240年程前の、江戸時代の民家があります。
この民家は昭和47年から昭和53年にかけて移築復元されたものです。

昭和30年代後半、生活様式が近代化し、古い民家の取壊しが急速に進みました。そのような中、文化財保護の観点から古い様式や各地の特色を残す民家を保護する取組が進められました。宮崎県では昭和46年に調査が行われ、各市町村から報告のあった築100年以上の民家61棟を対象として詳細が調べられました。

その結果、県内各地からそれぞれの土地に伝わった特徴を持ち、国の重要文化財の指定を受けた2棟(旧藤田家住宅・旧黒木家住宅)と、県の有形文化財の指定を受けた2棟(椎葉の民家・米良の民家)の計4棟が、民家園に移築復元されることになりました。



旧藤田家(1787年建築)

ギンリョウソウ

ギンリョウソウという真っ白な植物を知っていますか？初夏のうす暗く湿った森の地面に生育する菌従属栄養植物です。銀色の竜が首を持ち上げた姿に似ていることからこの名がつけました。幽霊のようなキノコにも見えるため、別名ユウレイタケとも呼ばれます。この植物は葉緑素を持たず、光合成で養分を作ることができないので、樹木と共生するきのこから養分をもらって生きています。

当館が大学の研究グループに参加して研究を進めていた、霧島山に自生するギンリョウソウ属の1種が、昨年日本植物学会の国際誌で、新種キリシマギンリョウソウとして発表されました。ギンリョウソウ属(ツツジ科)はこれまで1種とされていましたが、2種目となり話題になりました。



ギンリョウソウ



キリシマギンリョウソウ

博物館クイズ

宮崎県で発見された最も古い化石は約4億3千万年前のクサリサンゴとハチノスサンゴなどの化石です。これらは、どこの地層から見つかったものかな？

① おすずやま
尾鈴山

② かたむきやま
傾山

③ ぎおんやま
祇園山

